

ホツマ インターナショナル スクール 東京校 学則

(令和3年4月1日施行)

第1章 総則

(目的)

第1条 本校は、外国語を母語とする者に対して、総合的な日本語教育を实践して、国際交流と社会の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

(名称)

第2条 本校は、「ホツマ インターナショナル スクール東京校」という。

(位置)

第3条 本校は、東京都新宿区高田馬場4丁目30番19号に置く。

第2章 コース、修学期間、収容定員及び休業日

(コース、修学期間及び収容定員)

第4条 本校のコース、修学期間、収容定員及びクラス数は、次の表のとおりとする。

	コース名	修学期間	収容定員	クラス数	備考
第1部 (午前 クラス)	進学2年コース	2年	60人	3クラス	4月生 ... 60人
	進学1年9カ月コース	1年9か月	40人	2クラス	7月生 ... 40人
	進学1年6カ月コース	1年6か月	40人	2クラス	10月生 ... 40人
	就職(特定技能)1年コース	1年	20人	1クラス	4月生 ... 20人
	小計		160人	8クラス	4月生 ... 80人 7月生 ... 40人 10月生 ... 40人
第2部 (午後 クラス)	進学2年コース	2年	60人	3クラス	4月生 ... 60人
	進学1年9カ月コース	1年9か月	20人	1クラス	7月生 ... 20人
	進学1年6カ月コース	1年6か月	40人	2クラス	10月生 ... 40人
	就職(特定技能)1年コース	1年	20人	1クラス	4月生 ... 20人
	小計		140人	7クラス	4月生 ... 80人 7月生 ... 20人 10月生 ... 40人
計			300人	15クラス	

(始期・終期)

第5条 本校のコースは、原則として4月、7月及び10月に始まり、3月に終わる。

2 本校の卒業日は3月31日とする。

(休業日)

第6条 本校の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 土曜日
- (3) 国民の祝日に関する法律で規定する休日
- (4) 夏季休業日 (7月下旬から8月中旬の4週間程度)
- (5) 秋季休業日 (9月下旬から10月上旬の1週間程度)
- (6) 冬季休業日 (12月下旬から1月上旬の2週間程度)
- (7) 春季休業日 (3月下旬から4月上旬の2週間程度)

2 教育上必要であり、かつ、やむを得ない事情があると校長が認めるときは、前項の規定にかかわらず、休業日に授業を行うことができる。

3 非常災害その他の急迫の事情があると校長が認めるときは、臨時に授業を行わないことができる。

4 夏季、秋季、冬季、春季休業期間の変更または臨時の休業日については、その都度公示する。

(授業の終始時刻)

第7条 授業の終始時刻は、校長が別に定める。

第3章 教育課程、授業時数、学習の評価及び教職員組織

(教育課程)

第8条 本校の各コースの教育課程及び授業時数は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、ここにいう授業時数の1単位時間は、45分とする。

(1) 進学2年コース

授業科目	内 容	週当たり授業時数(週数)
総合日本語	初級～上級レベルの文型・表現・応用会話、大学受講準備	9時間(82週)
文字・語彙	初級～上級レベルの文字・語彙・漢字2000字	1時間(82週)
文法	日本語能力試験N4～1レベル文法問題	1時間(82週)

聴解	日本留学試験、日本語能力試験 N4～1 レベル聴解練習	3 時間 (82 週)
読解	初級～上級レベル読解、 日本留学試験 読解問題練習、新聞読解	4 時間 (82 週)
作文	初級～上級レベル作文、発表文原稿 小論文・記述問題対策、発表練習	2 時間 (82 週)

(2) 進学1年9カ月コース

授業科目	内 容	週当たり授業時数(週数)
総合日本語	初級～中上級レベルの文型・表現・応 用会話	9 時間 (72 週)
文字・語彙	初級～中上級レベルの文字・語彙・ 漢字 1500	1 時間 (72 週)
文法	日本語能力試験 N4～2 レベル文法問題	1 時間 (72 週)
聴解	日本留学試験、日本語能力試験 N4～2 レベル聴解練習	3 時間 (72 週)
読解	初級～中上級レベル読解、 日本留学試験 読解問題練習、新聞読解	4 時間 (72 週)
作文	初級～中上級レベル作文、 小論文・記述問題対策、発表文原稿	2 時間 (72 週)

(3) 進学1年6カ月コース

授業科目	内 容	週当たり授業時数(週数)
総合日本語	初級～中上級レベルの文型・表現・応 用会話	9 時間 (62 週)
文字・語彙	初級～中上級レベルの文字・語彙・ 漢字 1500	1 時間 (62 週)
文法	日本語能力試験 N4～2 レベル文法問題	1 時間 (62 週)
聴解	日本留学試験、日本語能力試験 N4～2 レベル聴解練習	3 時間 (62 週)
読解	初級～中上級レベル読解、 日本留学試験 読解問題練習、新聞読解	4 時間 (62 週)
作文	初級～中上級レベル作文、 小論文・記述問題対策、発表文原稿	2 時間 (62 週)

(4) 就職(特定技能)1年コース

授業科目	内 容	週当たり授業時数(週数)
総合日本語	初級～中級レベルの文型・表現 何が「できる」かに主眼をおいた、コミュニ ケーション能力の育成	10 時間 (40 週)
漢字・語彙	初級～中級レベルの文字・語彙・漢字 500 日常生活、業務における語彙、漢字の読み書 きの習得	4 時間 (40 週)
シャドーイング	初級～中級レベルシャドーイング練習 日常生活、業務上の反応速度アップと、好印 象を与える話し方の体得	2 時間 (40 週)

多読	初級～中級レベルの読みもの 大量のインプットと文化理解「伝える」の アウトプット強化	2時間（40週）
作文	初級～中級レベル作文、 描写文・意見文・報告書作成能力の獲得	2時間（40週）

(学習の評価と進級)

第9条 学習の評価は、平素の学習態度、出席状況、試験成績等を総合して決定し、

「書く」「聞く」「読む」「話す」の4つの項目を基に、それぞれの項目で5段階評価（A・B・C・D・E）とする。

2 進級については、以下のすべてを満たすことを基本として、校長がその可否を定める。

- (1) 出席率が90%以上あること。
- (2) 成績にEがないこと。
- (3) 品行方正であること。

(教職員組織)

第10条 本校に次の教職員を置く

- (1) 校長
- (2) 主任教員
- (3) 教員 15人以上（うち専任5人以上）
- (4) 生活指導担当者 4人以上（教員との兼任可）
- (5) 事務職員 1人以上（教員との兼任可）

2 前項のほか、必要な職員を置く

3 校長は、校務をつかさどり、所属教職員を監督する。

第4章 入学、休学、退学、卒業及び賞罰

(入学資格)

第11条 本校への入学資格は、次の条件をいずれも満たしていることとする。

- (1) 12年以上の学校教育又はそれに準ずる課程を修了している者
- (2) 年齢が18歳以上の者
- (3) 正当な手続によって日本国への入国を許可され、又は許可される見込みのある者
- (4) 信頼のおける保証人を有する者

(入学時期)

第12条 本校への入学は、年3回とし、その時期は、4月、7月及び10月とする。

(入学手続)

第 13 条 本校への入学手続は、次のとおりとする。

- (1) 本校に入学しようとする者は、本校が定める入学願書、その他の書類に必要事項を記載し、第 20 条に定める入学検定料を添えて、指定期日までに出席しなければならぬ。
- (2) 前項の手続を完了した者に対して選考を行い、入学者を決定する。
- (3) 本校に入学を許可された者は、指定期日までに第 20 条に定める入学金及び必要な書類を添えて、入学の手続をしなければならない。

(休学・復学・在籍管理)

第 14 条 疾病その他やむを得ない事由によって、3 日以上休学しようとする場合は、その事由及び休学の期間を記載した休学届に、診断書その他必要な書類を添えて申請し、校長の許可を得なければならない。

- 2 休学した者が復学しようとする場合は、校長にその旨を届け出て、校長の許可を得て復学することができる。
- 3 1 か月の出席率が 8 割を下回った者に対して、1 か月の出席率が 8 割以上になるまで改善の指導を行い、その指導の状況を記録しなければならない。ただし、疾病その他やむを得ない事由により欠席した者についてはこの限りではない。
- 4 資格外活動を行う者は、本校へ当該許可に係る活動を行う本邦の公私の機関の名称等の詳細な届出をしなければならない。

(退学)

第 15 条 退学しようとする者は、その事由を記した退学願いを提出して、校長の許可を受けなければならない。なお、未成年者の場合は事前に保証人の同意を得ていなければならない。

また転学については原則として認めないが、やむをえない事情と校長が判断した場合のみ転学を許可する。ただし、除籍になった者、退学した者が他校に入学することについてはこの範疇ではない。

(除籍)

第 16 条 次の各号いずれかに該当する者は、除籍することができる。

- (1) 本校において修学する意志がないと認められる者
- (2) 1 か月以上音信不通の者
- (3) 退学の懲戒処分に従わない者

(進級・修了・卒業の認定)

第 17 条 校長は、教育課程で定められた各授業科目について第 9 条に定める評価を行い、

一定の評価を受けた者に対して当該コースにおける進級とその修了乃至は卒業を認定する。

2 校長は、本校の所定の課程を修了した者に対して、次の要件に従って修了証書乃至は卒業証書を授与する。

- (1) 卒業試験の受験及び卒業スピーチの発表。
- (2) 卒業試験の合格乃至は総合成績でEがないこと。
- (3) 出席率が95%以上あること。

(褒賞)

第18条 校長は、成績優秀かつ他の生徒の模範となる者に対して、褒賞を与えることができる。

(懲戒処分)

第19条 生徒が、この学則その他の本校の定める諸規則を守らず、その本分にもとる行為があったときは、校長は、当該生徒に対して懲戒処分を行うことができる。

- 2 懲戒処分の種類は、訓告及び退学の2種とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する生徒に対して行うものとする。
 - (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由なく出席が常でない者
 - (4) 本校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者
 - (5) 全教職員の審議により在籍の継続が相当でないと認められる者

第5章 生徒納付金

(生徒納付金)

第20条 本校の生徒納付金は、次のとおりとする。

- (1) 入学検定料 : 20,000円 (但し、在留資格が「留学」以外のは免除する。)
- (2) 入学金 : 80,000円 (在留資格が「留学」の者)
30,000円 (在留資格が「留学」以外の者)
- (3) 授業料 : 660,000円 (1年分)
- (4) 雑費(教材費・課外活動費等) : 40,000円 (1年分)

(納入)

第21条 生徒が在籍中は、出席の有無にかかわらず、授業料を所定の期日までに納入しなければならない。

- 2 生徒が休学した場合は、前項の規定にかかわらず、その始期に属する月の翌月から授業料を免除することができる。

- 3 特別な事由がある場合は、第1項の規定にかかわらず、別に定めるところにより、授業料の全部又は一部を減免することができる。

(滞納)

第22条 生徒が、正当な理由なく、かつ、所定の手続を行わずに授業料を2か月以上滞納し、その後においても納入の見込みのない場合には、校長は、当該生徒に対して除籍処分を行うことができる。

(生徒納付金の返還)

第23条 既に納入した生徒納付金は、原則として返還しない。ただし、疾病その他やむを得ない理由により退学する場合に限り、別に定めるところにより、その全部又は一部を返還することができる。

第6章 雑則

(寄宿舎)

第24条 寄宿舎に関する事項は、校長が別に定める。

(健康診断)

第25条 健康診断は、毎年1回、別に定めるところにより実施する。

(証明書発行)

第26条 証明書発行に関する事項は、校長が別に定める。

(細則)

第27条 この学則の施行についての細則は、校長が別に定める。

付則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。